



《発行所》

青山同窓会

〒951-8127 新潟市関屋下川原町 2-635
新潟県立新潟高等学校内
TEL 025-266-5268
FAX 025-266-5268

《編集・発行人》

長谷川 義明

《印刷所》

オリオン印刷株式会社
〒950-0963 新潟市南出来島1-19-1
TEL 025-283-2151
FAX 025-283-3804

会長就任のご挨拶



長谷川 義明 (61回)

活動に大きな実績を残していただきました。ご苦勞に厚く感謝を申し上げます。

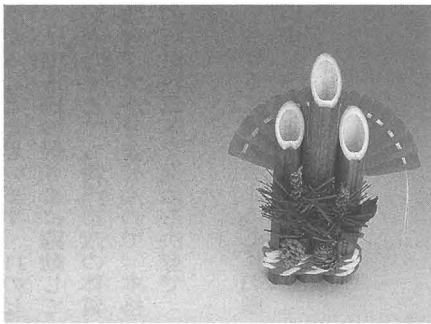
私は新潟市長職を三期十二年にわたり務めさせていただきましたが、その経験からも新潟の産業経済、医療、教育をはじめとする各界各分野における青山同窓生の活躍、その果たしている指導的役割は大変大きなものがあります。また多くの同窓生が全国的にも国際的にも大変活躍しておられることは同窓生の一人としてまことに心強く感じました。同窓生の活躍は同窓会にとっても大きな誇りであり、地域社会に貢献している同窓生の活躍の内容がより多くの同窓生に理解されるよう

平成十五年七月の総会において青山同窓会会長に選任されました、第六十一回卒業の長谷川義明です。若輩者ではありませんが同時に選任されました副会長をはじめとする役員の方々とともに、同窓会活動の活性化にむけて努力をしてみたいと存じます。

上村前会長さんをはじめとする前役員の方々に母校の全面改築に続く百十周年の諸事業など大きな節目の時期の同窓会の

同窓会の活動の更なる活性化に向けて工夫をしてみたいと考えております。

役員全員が新制高校の卒業という若い世代による構成になりましたが、伝統ある青山同窓会として有意義な活動が継続されるよう、そしてより多くの同窓生の参加がいただけるよう努力をしてみたいと存じます。先輩各位をはじめ同窓会員の皆様のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



青山同窓会新年会のお知らせ

例年参加者が限られていた同窓会新年会に、より多くの方から参加していただくために、今年から新しい企画を盛り込みました。各方面で活躍しておられる同窓生にスポットを当て、その人となりに触れようというものです。初回は75回卒業の新潟市長篠田昭さん、77回卒業の瀬賀倫夫さんの登場です。篠田さんからは新しい年の初めにふさわしい夢のある都市経営のお話をさせていただきます。瀬賀さんからは心が和む音楽を奏させていただきます。どうぞお誘いあわせの上ご参加ください。各期幹事からも連絡していただきますが、参加を希望される方は事務局までご一報ください。

日時：平成16年2月27日(金)18:00

会場：グランドホテル TEL.025-228-6111

会費：5,000円

フンタ・ブラーバ出演

フンタブラーバ=バンドネオン/小川紀美代、ギター/瀬賀倫夫、他に打楽器1人

2003年アルゼンチンのコスキン・フォルクローレ・フェスティバルに日本代表として参加。アルゼンチン・タンゴとフォルクローレをバンドネオンとギターのアンサンブルでお届けします。

政令指定都市に進む新潟

新潟市長 篠田 昭 (75回)

入ることができました。深く感謝申し上げます。

市長選では「合併—政令指定都市づくりをきちんとやります」—「そのためにも市役所改革が必要です」と訴えて参りました。

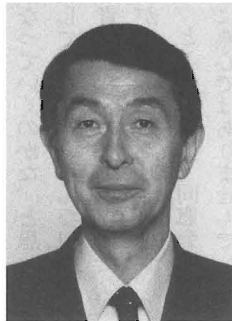
新潟地域の合併—政令市づくりには二つの大きな目的があります。

一つは雇用の場の拡大による地域の活性化です。都市規模を大きくすることで都市型サービス産業や情報産業を伸展させ

るとともに、福祉・生活ビジネスを積極支援して雇用の場拡大を安心・安全な暮らしづくりに結びつけます。

もう一つは地域の自立度をアップさせることです。県並みの権限・財源を持つ政令市になることで新潟は地方主権の流れを先取りし、自分たちの地域が進む方向を自らが選択し決定していくことができます。

昨年九月末に終了した任意の合併問題協議会では二二六の各種事務事業に合意したほか①合併方式は新潟市への編入方式とする②新潟市を除く市町村の議員は合併時に失職し人口1万人に1人の割で新たに議員を選ぶ



青山の皆さま、新年明けましておめでとうございます。昨年は新潟のまちづくりや市政運営にご協力をいただき、誠にありがとうございました。

一昨年十一月に皆さま方の大変なご支援を受けて市長にさせていただきます、何とか二年目に

定数特例とする③新潟市を除く市町村長は失職し地域審議会の委員となる―ことなどが決まりました。

合併建設計画もハード優先にならぬよう事業を厳選し、財政計画では行財政の効率化に務めることで行政コストを軽減し、市民サービスの充実に努める方向を明確に打ち出したつもりです。

年明けには法定の合併協議会をスタートさせ、年度内に各議会で合併の議決をいただけるよう精力的に協議を詰めて参ります。そうすれば二〇〇五年三月末までの合併が確実となり、二〇〇七年四月一日を新潟政令市の誕生日とすることができま

す。合併を進める際に市政改革を並行して行うことが重要と思えます。昨秋には公正取引委員会の立ち入り入検査で市民に大変ご心配をお掛けしました。立ち入りを受けた九日後には入札改革を打ち出し、落札率の低下などの効果も出ていますが、引き続き透明性・競争性を高めるように努めて参ります。また、十一月には百二十八項目からなる「市政改革・創造推進プラン」を決

定し、今まで手がつけられなかった民間委託などを盛り込みました。

新潟にとつてうれしい昨年の出来事の一つにアルビレックス新潟のサッカーJ1昇格があります。いま中核市である新潟が政令市になることは、サッカーに例えればJ2からJ1のステージに

上がるかと思えます。J1のピッチで市民の皆さまに躍動していただく上でも新潟市政の体質改善が欠かせませんので、本格的に行財政改革を進める決意です。

今年もご協力をよろしくお願い申し上げます。

退任あいさつ

上村 光司 (50回)



昨年七月の平成十五年度総会で退任しました。数年前から、新製の諸君が七十歳を越えてきたし、早く世代交代しなければ

と、気がせいっていたのですが、新校舎建築と創立百十周年記念の事業計画が進行中だったので敵前逃亡はできまいと、長つ尻になつてしまいました。

お蔭様で記念事業は計画どおり実行できました。県の財政が深刻にならぬうちに校舎新築を進めていただいて、有難く思っています。それにつけても、こ

れまでの周年事業にあたって、各期幹事会でお願いをし、会報に載せ、各位にご案内を出すだけで二千万、三千万というお金を拠出していただけなのは、まことに凄いい、大変な同窓会だと、改めて思います。

何度か申してきたように、私は青山同窓会の紀元元年は昭和二十四年だと考えています。四月四日に校舎焼失、その復興に立ち上がりました。建築費半額負担のための募金に、各期幹事の組織化、卒業生名簿の整備、専任事務局設置など、同窓会の組織がここで出来上がりました。

校舎復興のあとと体育館や青山会館など、十年ごとの周年行事で母校の整備が進みましたが、これが同窓会の活力維持強

化の機会になったと信じています。ついでに申せば、同窓会活動は校舎復興が強い動機になったため、各周年事業はハコ物が対象になることが多かった。しかし現在は校舎等の施設は県費でまかなうので、同窓会の母校に対する寄与も、ソフト面が主になっていくのかな、と思つたりしています。いろんな視点から

とに少ない。五、六百人も集められないかという話が出ている。実務は全部引き受けるから、格好だけ旗振り役をしろ」と言う。軽率にもそれにウンと言つたのが運の尽き。その最初の総会小林デパート食堂(現三越)で六百三十人出席達成、アトラク

ションの好評もあつて大盛會、これが現在までの総会の原型になりましたし、私の事務局とお付き合ひの始まりでした。寄居浜の坂口安吾の碑「ふる

さとは語ることなし」について、私は「ふるさとは言葉で定義し難い、論理を超えたものだ」というように勝手に解釈をしています。それで、同窓会もふるさとの一部だから、面倒くさい理屈は苦手だと、ズボラにを決

めこんだまま生きてしまいました。そんな私の会長四期八年、会員各位、役員のお仲間の皆さんからご助力を賜りましたこと、まことに、まことに有難うございました。御礼申し上げます。

ご挨拶

風間 士郎 (64回)



の先生や生徒との交流などに發揮できたらお互いに得るものがあるものと思います。

文化面、運動面いずれの分野においても課外授業を行つたり、運動部において先輩がコーチ役を買つて出たり、財政的援助をすることができれば母校愛が一層強まるものと思えます。先輩が母校に対する愛着と前記のような援助を積み重ねていけば一例として、野球部の甲子園出場も夢ではなく、その日も必ず来るものと確信します。現に秋田、静岡など各県進学校は度々甲子園のキップを得ており、文武両道を誇る新潟高校にできない筈はありません。

それが実現すれば母校、同窓会とは明らかであり、単なる夢に

終わらせないため、同窓会として何をすれば良いかを考えて実行に移して行きたいと思っています。

幹事長就任ご挨拶

小崎 弘一 (73回)

小遣いもたいてない時代、ジャンルを分担して集め、将来ジャズ喫茶を経営することが夢でした。土地を提供するもの、酒類を引き受けるもの、解説を専門とするもの、私は店の設計を受け持つことになっていました。いまだに実現していませんが、これはまだまだ老後の楽しみで、ソニーロリンズ、マイルスデビス、ジョンコルトレーン、



このたびの役員改選で幹事長を仰せつかりました。名幹事長の石田先輩の後を継ぐのは大変ですが、長谷川新会長の足を引っ張らないよう、じっくり取り組みたいと思っています。卒業して三〇年になろうとしています。在校した三年間にはいい思い出がたくさんあります。軽音楽部(ジョリーチャップス)、写真部、生徒会、応援団、と懐かしく思い出されます。特にジョリーチャップスは楽しい仲間ばかりで、今もお付き合いが続いています。モダンジャズというものに始めて出会い、仲間

必死にレコードを集めました。

なたが年を取ったのだと言いますが、どうにも腑に落ちません。一言言いたいのですが取り囲ま

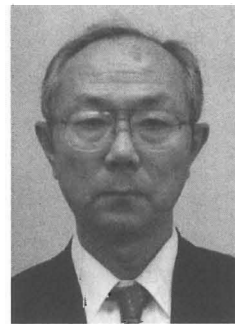
会なんというのがあるとなし声の聞きたいと思います。年寄りのグチでない話もできるのではないかと思います。同窓会にはいろいろな分野で活躍しておられる多くの方々がいらっしやいます。そういう方々からお話を伺う機会をできるだけ多く作っていきたく思います。新年会、

総会もそうですが、もっと気楽に集まり、興味深いお話をお聞きすることができたらずばらしいのではないのでしょうか。非力です。どこまでできるかわかりません。でもガッツだけはあつちもりです。もちろん皆様方のご協力なしにはなにもできません。お力添えくださいますようお願いいたします。

学校を訪れたり、バスで通るかかると、様々な格好をした子供たちに出会います。シャツをズボンから出し、ズボンは下にずり下がり、でっかい声でしゃべり、これが新潟高校の生徒なのか?と思ってしまう。家内

副会長就任挨拶

石田 瑞穂 (67回)



上村前会長の下で、幹事長として会員の皆様にお世話になりました。ありがとうございます。このたびの長谷川新会長からの指名と総会の承認により副会長を務めさせていただくことになりました。伝統ある青山同窓会の発展、老いも、若き、も参加して楽しい会合作り、後輩の活躍を願ひ、尽くしたいと思ひます。重ねてよろしくお願ひします。

新旧役員名簿

旧役員		新役員	
会長	上村 光司(50回)	会長	長谷川 義明(61回)
副会長	小林 亨(60回)	副会長	風間 士郎(64回)
副会長	敦井 栄一(69回)	副会長	石田 瑞穂(67回)
幹事長	石田 瑞穂(67回)	副会長	敦井 栄一(69回)
副幹事長	藤井 泰介(56回)	幹事長	小崎 弘一(73回)
副幹事長	江口 良助(61回)	副幹事長	大森 ゆかり(69回)
副幹事長	小田 嶋寿一(64回)	副幹事長	河崎 順昭(74回)
副幹事長	高島 敬子(66回)	副幹事長	小島 富美子(75回)
副幹事長	佐川 八重子(67回)	副幹事長	北村 幸輝(76回)
副幹事長	山田 栄(69回)	副幹事長	木村 正史(77回)
	兼校内幹事		兼校内幹事
副幹事長	大森 ゆかり(69回)	副幹事長	小林 敬直(78回)
副幹事長	小崎 弘一(73回)	副幹事長	白井 行雄(79回)
副幹事長	小島 富美子(75回)	副幹事長	砂田 徹也(81回)
副幹事長	木村 正史(77回)	副幹事長	栗原 道平(82回)
	兼校内幹事	副幹事長	小林 しょう(82回)
副幹事長	小林 敬直(78回)	副幹事長	吉田 徳治(83回)
副幹事長	砂田 徹也(81回)	副幹事長	行田 充(84回)
副幹事長	栗原 道平(82回)	副幹事長	渡辺 毅(85回)
副幹事長	玉木 正己(86回)	副幹事長	玉木 正己(86回)
	兼校内幹事		兼校内幹事
監事	早福 卓(55回)	副幹事長	渋谷 聡(88回)
監事	上杉 雅之(60回)	監事	江口 良助(61回)
事務局	三浦 弘子	監事	渡辺 国夫(72回)
		事務局	外山 和子

平成15年度 青山同窓会総会

平成15年7月25日 (金)

昨年七月二十五日(金)、例年通り青山同窓会総会がホテル新潟を会場に開催されました。例年ですともう一・二週間早い開催なのですが、ホテル新潟の会場が北信越PTA総会等に先に予約され、いつもと少し開催時期がずれました。そのため、当初だけだけの人が集まるか少し心配をしたのですが、かえって例年よりも多くの人が出席され会場に丸テーブルが一杯に入り、テーブル間を歩くのが難しい状況で、これ以上の出席者があつたときはどうしたらいいのか・・・また、来年も多くの出席があり、本当にこんな心配をしたくないものです。第77号で既報のとうり、同窓

会総会実行委員長である福田英氏がお亡くなりになり、今年度は同期の副委員長北村幸輝さんが実行委員長代理で平成十五年度総会の運営をなさいました。

総会では、上村会長の議長の後、議事が次々に進行し、最後の議事は会長以下役員交代人事の案件だけでした。上村会長の勇退の弁の後、長谷川新会長が指名され、満場一致で了承、総会後から新体制でのスタート

ということになりました。新湯高校創立百周年・百十周年と二回にわたる周年行事を先頭に立ち実行したご苦労は、並大抵の物ではなかったかと思えます。その労苦に感謝申し上げます。ろです。

懇親会は、例年よりも少し遅い、夏真っ盛りの開催日である

というところで、実行委員会のアイデアで料理に「新湯の夏を盛り込もう」ということになりました。ホテル新湯に特別にお願

いし「つけなす・枝豆」を今年度は特別に出しました。出席された方に非常に好評であり、実行委員会のメンバーも反応に喜んでいました。

のいい記念になったのではないのでしょうか。

2次会は、各期ごとに行っているのですが、今年は栗原(82回)さんの粋なはからいで、アナスタシア号(信濃川の船)で

二次会が設定されました。ホテル新湯からのんびりと歩きながら信濃川の発着場まで行ったかたもいたのではないのでしょうか。

東京青山同窓会

〈悲願のJ1昇格〉

星野 紹英 (84回)

「悲願のJ1昇格」をアルビレックス新湯が果たしたのは十一月二十三日。今年の東京青山同窓総会は、その十日ほど前の十一月十四日、悲願達成に向けて一気にヒートアップする関係者の出席を得て開催された。こ

の時点で野球流に言えば、二試合を残して「マジック勝ち点二」、一試合でも引き分ければ昇格決定という状況。翌日の対アルビレックスにも「決定の可能性」、バ福岡戦にも「決定の可能性」というよりも関係者・サポーター一同は「当然決める」といっ

た意気込みであり、総会当日はさしずめ「前夜祭」の様相。しかし、「悲願達成」の歓喜はアウェーの福岡ではなく、最終戦のホーム新湯での対大宮アルディージャ戦後まで待たなければならなかった。結果的には、ライバル川崎フロンターレが残り二試合とも勝利したため、アルビレックスにとってはギリギリの昇格決定。翌日の新聞には、メ

データく反町監督・池田社長らの

は、今年から全体の

け持つために新たに結成された



写真が紙面を飾ったのだが、もしも「悲願またも…」などという結果になっていたら、私はこの文章をどんな風に書いたらよいか分からなかっただろう。改めてお祝いを述べさせてもらいます、おめでとう！

「母校百周年を振り返る」(一昨年)、「津軽三味線」(昨年)とともに最近のアトラクションは

何れも感動ものであり、事務局のご尽力・お心配りに感謝感謝。二次会もアルビレックス(二

ールの合間を縫って駆けつけ、またチアリーダーはじめ他のアムブレックスの関係者も多数参加し雰囲気は最高潮。あまりの興奮のためか、私は終電に接続する時間に店を出たはずなのに途中で電車を乗り間違えて、結局最後はタクシーで帰宅。
 〈来年も期待膨らむ〉

栗林貞一君の 勲二等瑞宝章叙勲を祝して

佐藤 吉雄 (59回)



制で新潟中学に入学し昭和二十六年新制で新潟高校を卒業したもので、六年間同じ環境で学校生活を送ることができ、同期生の親密度も格別

昨年五月の叙勲 おめでとう。運輸省勤務当時の功績が公に認められたもので同期生一同、心からお祝い申し上げます。我ら59期生は昭和二十年、旧

で、喜びの気持も、ひとしお高いものがある。栗林君は入学当初から優等生グループではあったが、ガリ勉一辺倒ということはなく、中学

の途中からトップになり、そのまま高校卒業となったがテニス部にも所属し、俺は成績がよいというような態度はまったく見られず、温厚でテーチャーと呼ばれて誰にも親しまれ、このことは社会人になり、地位が高くも相談を受けると相手の立場に立って親身にアドバイスしてくれている。このようなことは栗林君本人は何も言わないが、級友達から「あの時のアドバイスは今でも忘れられないよ」との感謝の言葉が良く耳に入ってくる。

このクラブは、定期的に米国入講師によるスピーチ、英会話練習、英文による外国高校生との海外文通とその発表会、合同クリスマス・パーティー等を開催し、その活動は当時、国際友好親善活動として、新潟日報紙上にも掲載された。設立初年度の市内高校の会員は、本校は二年生で、他校は三年生主体であったが、会長(ブレジデント)に選ばれた栗林君の対応は年次の上下を感じさせず、行事の開催ごとに必要な高校間の連絡も和気あいあい、スムーズに行われていた。

に就任された。観閲式には、国内全域及び諸外国から、マスコミ関係を含め、約三千人の関係者が招かれ我々同期生も婦人同伴者を合わせて二十数人が参席し、開かれた海上保安庁とその装備の充実振りを目の当たりにし、日本を取り巻く海上の安全確保に信頼と安心感を抱いたことであった。その夜開催された祝賀パーティーでの長官のホストぶりも見事であった。我ら同期生の期待の星が日本を代表する人物の一人として世界のヒノキ舞台上に立つた感じであった。しかも、その姿はパーティーのスケールやレベルは別にして、高校三年当時の、新潟日報社も取材に来ていた、あの、ペン・パルズ・クラブの合同クリスマス・パーティーでのブレジデントとしての君を、ほうふつさせるものであった。

このたびの叙勲を同期生一同、重ねて心から祝福するとともに、いつまでも変わらぬテーチャーで、健康で今後も国のため、社会のため活躍されることを祈念する次第である。なお、同期では、宇佐美裕三君、中野文郎君、安食裕夫君が叙勲の榮に輝いている。今回は紙面の都合で詳細は省略させていただきますが、同期生一同心から祝福申しあげるとともに、栗林君同様、今後も健康で国のため、社会のため活躍されることを祈念する次第である。

高校時代のことで何時も思い出出すことは、二年生当時、我々を直接担任された川口先生、立間先生をはじめ、英語の先生方のご指導で、ペン・パルズ・クラブを結成したことがある。諸先生が、何とか生徒達に本場の英語に触れさせ、実際に通用する英語をとおして外国人とのコミュニケーション・アビリティを育成し、外国文化を吸収できるチャンスを与えてやりたい、とのお考えからの出発であった。

しかも、本校単独でなく、市内の各高校を我々が訪問し、趣旨を説明し、会員を募集しての設立であった。新潟陸運局自動車部貨物課長となり、その後も順風満帆で、本省の航空局長、貨物流通局長、運輸政策局長等の要職を歴任し、昭和六十一年、海上保安庁長官

その後、昭和六十二年十月、後進に途を譲つての勇退後も、日本航空(株)で常務取締役、専務取締役、副社長を歴任し、日本アジア航空(株)代表取締役会長を経て、現在も同社特別

栗林貞一さんの原稿が締め切り前に手違いがあり、この度の青山同窓会会報に掲載いたしました。遅れたことのお詫び方々ご報告致します。
 同窓会事務局

同窓生訪問記

「一人ひとりが大切にされ、

いかされるまちを目指して」

社会福祉法人新潟いのちの電話理事長

真壁伍郎さん(第62回卒)を訪ねて

岩原 朋子(93回卒)



「愛してくれる家族のお陰で死なずにすんだ」という自殺を思い留まった人の言葉が、家族に自殺された残された人にとって「愛情の分量」について自分を責める言葉になるなんて思ってみたこともありませんでした。

いのちの電話では相談をする側もされる側も匿名であること、相談員が電話の向こうの人の声にしつかり耳を傾け、直接話しかけることがとても重要なことなのだそうです。でも、その言葉でその人を助け得たのか、結局助けられなかったのさえない不明なまま。だからボランティアの相談員の方々にとっては相手がつても命を救っている実感はな

いのかもしれません。裕福で幸せで時間の有り余っている奥様が自己満足で電話相談係をしているんだらうなんて、ちょっとでも思っていた自分を恥ずかしく思いました。ボランティアの方々は、一年間にわたる研修を受けて認定された方々です。それでなくても忙しい毎日の中から時間を作り、無償で(むしろ交通費などは持ち出しで)ひたすら話を聴き続けるのだそうです。中には、自分が相談したいと思うような悩みを抱えたり、借金苦でボランティアどころではなくなったりという状況でも止めずに続けてこられたような方もいらっしやいます。

を少しでも減らすために尽くし続けています。

「新潟いのちの電話」は、真壁さんたちの純粋な思いを核とし、相談員のボランティアの皆さん、そして一、〇〇〇人も会員の方々、金銭面から大きな支援をし続けている後援会の方々等多くの人の思いで形成されています。

真壁さんも制定に関わられた「新潟市民憲章」の1節「新潟は、みんなで生きるために、助け合うまち。はぐくむ心が、いのちを育てる。新潟は、一人ひとりが大切にされ、いかされるまち。」の中に、真壁さんの思いと夢が込められています。

今回お話を伺ったのは、真壁さんのお宅に増築されている「野の花文庫」という絵本や児童書でいっぱいのお部屋でした。そこにただいられるだけでも心が暖かくなるような空間です。ここで相談員の方々の「古典を読む会」なども催されているそうです。目下ゲーテの「ファウスト」に取り組まれているとのこと。

「真の教養とは古典との対話によって養われる」色々話を伺っ

ているだけで、なんだか何もしない自分までが高尚な人になれたような、クラシックの素敵な演奏会から帰ってきた直後のような気持ちになりました。

同窓生紹介 1

やはり野球のじや

大越 健介(88回)

興味のある方は、社会福祉法人新潟いのちの電話事務局 TEL025-229-5677までお問い合わせ下さい。

会報に一文を寄せよというお声かけに、しばし思案しました。NHKの政治部記者という仕事柄、ニュース解説で、二枚目とはいえないこの顔を、画面にさ

らす機会も増えました。それをきっかけに声を掛けていただいたのだから、永田町の事情でもお伝えすべきかと思いましたが、それは本業に譲るとして、ここでは、私のこれまでにとって大きな存在だった、「野球」との関わりを辿ってみたいと思います。

今は新潟県でも、甲子園出場によって名前を高めようと、積極的に選手獲得に乗り出す高校が増えたと聞きますが、我々の頃は、私立も含めドングリの背比べでした。そして昭和五十四年、わが新潟高校は、甲子園を狙う先頭集団の中にありました。ところが、幕切れはあつげな

興味のある方は、社会福祉法人新潟いのちの電話事務局 TEL025-229-5677までお問い合わせ下さい。

戻ってしまったのかもしれない。長岡高校は、春の大会では完璧に抑えていただけに、我を失ったふがいないピッチングで、仲間には本当に申し訳ないことをしました。

翌日の新潟日報に、「もう野球はやりません」という自分の談話が載っていました。なるほど、そんな気分になったようにも思います。しかし、若さの持つ回復力でしょうか、実際はもう翌日から、大学で野球を続ける気持ちを固めていました。やるなら神宮・東京六大学。レギュラー取るなら東京大学しかない、実に短絡的な思考で志望大学を決めました。一浪はしましたが、合格できたのは、野球の神様が、学問の神様に頼んでゲタを履かせてくれたからでしょう。

ところが、実際に入部してみても、私よりさらに高いゲタを履いたとしか考えられない剛の者が、何人もいるのを知った時には、野球の神様もずいぶん気がいいと感心したものです。

東大野球部での四年間は、とびきりの幸運をいただいたとしか言いようがありません。横手投げにフォームを改造したのが功を奏したのか、二年の春から

先発ローテーションに入り、リーグ戦通算8勝。一方、通算の負け数は27敗。

実はその負け数こそ、私の誇りです。ケガもありましたが、最後までマウンドを守り抜くことができた証しだからです。一年

下で、国立高校時代に甲子園に出場し、「都立の星」と騒がれた市川武史君とともに、とにかくよく投げました。ときどき、頭腦的な技巧派投手などと評されましたが、実際は、速くもないストレートで勝負しましたが、捕手を困らせていました。

えげつないシフトで打者のバットを折ることを至上の喜びとする、直情型の投手だったので

印象に残る強打者は、明治の広沢、法政の小早川の両選手。広沢選手は、「田淵さんのホー

ムラン記録を更新するために、何とぞご協力を」と年賀状に書いてよこすなど、茶目つ気たっぷりの選手でした。番外編としては、カージナルズで本塁打王を獲ったマクガイア選手です。

三年時、日米大学野球選手権の日本代表に選拔され、全米の四番だった彼と一度だけ対戦しました。特大のファールの後、レフト前ヒット。まるでピンポン

球でした。政治記者という今の仕事は、

さまざまな政治家と「さし」で渡り合う、胆力の要る仕事でもあります。しかし、不思議と気

は甲子園が舞台でした。時間差で夢を叶えたことになりました。スタンドには、関西の大学へ進んだ高校時代の仲間が陣取っていました。もちろん、神宮球場

でのリーグ戦は、東京で学生生活を送るかつてのチームメイトが、連日観戦してくれたもので

す。最後のリーグ戦を終え、まっすぐ伸びなくなった右ひじに限界を感じたこともあって、いく

つかの社会人の誘いを断り、NHKへの就職を選びました。大学の四年間は、ライバル校も含めた新潟の高校球児たちの代表

として、野球を続けさせてもらったようなものだと思っっています。高校時代の同期の皆とは、今も毎年、正月になると、当時の監督だった田村誠一先生のご自宅

にお邪魔し、旧交を温めています。年の初めを、野球をめぐる

思い出話から始めるのが私の習慣というようになります。実は、高校一年を頭に、三人の息子も野球漬けの毎日です。私は

とことん野球の神様に可愛がってもらう運命にあるのでしょう。

同時に、今なおイラクで頻発しているテロ事件に接するにつ

け、平和な日本で、ひたすらスポーツに汗することができた私

たちと、私の息子たちの幸せを思わずにいられません。そして、私が一人ランニングした海岸が、

北朝鮮による拉致事件の現場となり、横田めぐみさんの行方をたずねる看板が、まさにあの頃、あちこちに立てかけられていたことを思うと、平和のすぐ隣で大きく口を開けている危機

池先生との 出会い

江口 直禎(56回)

終戦の年の九月末、旧制新潟中学校の校庭で池先生の着任式があった。小柄ながら姿勢よく

にこやかに台の上で挨拶されたことを覚えている。偶然の成り行きでそのあとすぐ私どもの担任となり三年と四年の二ヵ年池先生の学級に所属

するという幸運に恵まれた。池先生は当時掘割(今の関屋分水の近辺)の砂丘と松林に囲まれた一軒家に奥様と赤ちゃんと生活しておられた。三日にあ

げずと言っては大袈裟になるが頻繁に先生のお宅にお邪魔しては赤ん坊のお守りまでしていた。授業では西洋史を習っていた

眠りなどしているとチョークの飛礫が飛んできて冗談まじりの説教もされた。全く堅苦しさ

がなくニコニコした先生が話し出されるとみんな耳を傾け一言一句まで吸収しようとした。

あるとき、悩み事があつたらメモして提出せよという学級での提案があつた。中島顕君が隣の印刷屋の騒音に悩まされ、夜の勉強が出来にくいと訴えた。そのことが学級全体で取り上げられたことが記憶に残っている。

たまたま私が教員になったこともあって、卒業してからもよく先生のお宅へお邪魔しました。その際に先生の書かれた論文「歴史法則定立の問題」という小冊子をいただいた。四十年以上前のものだが未だに手元に残っている。

昭和四十八年私が大和中学に単身赴任していたころ池先生に講演を依頼した。講演の前小一時間、先生のお誘いを受け魚野川のほとりを散歩した。ただ先生について歩いているだけで心の安らぎを感じた。

先生が新大付属病院に入院しておられた時丁度退院されるところに出会い、ご自宅までお送りしたことがあつた。食欲がないとのことで手作りの梅干をお届けし具合をたずねたのもその頃であつた。青山百周年の記念誌原稿を執筆中にお邪魔したことがあつた。「人生は走馬燈」の池先生遺稿集冒頭の「青陵の四十年」の原稿がそれだ。終戦当時の新潟中学校の教職員の裏話から始まり、丁度最後に教え子たちの刊行本の紹介記事を書かれておられた時だつた。十二人の刊行物のうち八人が我々の同期の者で占められていた。いかに青山五十六回生が池先生との因縁深かつたことか。おそらくこの執筆が池先生のまとまった原稿の最後ではなかつたか。偶然その場に居合わせたことに因縁深さを感じた。

なくなられる半年くらい前であつたらうか榎谷小路のバスの中から池先生がごもりをステッキがわりに散歩しておられる

場面に遭遇した。道端の紙屑を拾われてゴミ箱に捨てておられるところだつた。帰宅するや矢

も盾もたまずありあわせの物を持って池先生のご自宅にお邪魔

しました。玄関で数分の立ち話であつたがそれが先生との最後の

出会いとなつた。

先生はさかんに教え子たちに

した。(終)

本を出せと言っておられた。私も先生の言にのせられ、ある研究を十ページ程にまとめ先生の自宅にお届けしたら「江口、今度本にして出せよ」と次の意欲をかきたてられた。実にのせるのうまく、何によらず教え子が本を出版することに期待しておられた。玄関の書棚に数々の教え子の出版物を置かれ、来客ごとにさも自慢そうに本を紹介

伊東・焼津・寸又峡への旅

高木 研三 (63回)

東京青山六三会は、相墨直彦君を中心に数人の会員が一年に数回関東周辺に旅をしており、その模様は平成十四年一月の会報でご報告しています。今回は最新の旅の様子です。

旅に電車はつきもの。平成十五年十一月十一日、東京発のJR東海道線の電車で阿部隆二君、相墨直彦君、永松良久君、峰松忠浩君、それに私の五人が各自の最寄り駅から乗車。昼前には目的地の伊東に着きました。雨の中、一同は早速伊東が生んだ医学者であり文人、画家として、大正、昭和に時代に活躍

している様が偲ばれる。それなのにご自分はまとまった著作集を一冊も出されずに他界された。「教え子が出版してくればそれが何より」とニコニコしておられる様子が目に浮かぶ。十年前の六月七日、八十二歳の生涯を閉じられた池先生を偲びつつ。

平成十五年十二月四日

期建築の木造三階建ての旅館だつた建物です。この建物は七年前に旅館としての歴史を閉じましたが、五階分の高さの展望室を備えた堂々たる建物を取り壊すには忍びないと伊東市が譲り受け、市の文化施設として公開されています。客間の障子や欄間には棧組みの模様が浮き出ているほか、建物の中央部分二箇所に、明かり取りを兼ねた中庭が設けられるなど、職人たちが手間隙厭わずに作り上げた当時の旅館建築の様式を良く伝えていました。

松川沿いの遊歩道を散策しながらホテル暖香園に着き早速温泉へ。広々とした大浴場で汗を流した後は夕食で、あわび焼きから、ロシア料理のクリームスープのパイ包みまでおいしい料理が供され、地ビールや冷酒と相まって一同満足でした。

二日目。朝食のあと出発。前日来の雨も止んで天気は何とか持ちそう。でも車窓からみる富士はずそ野しか見えず、山全体は雲の中に。そこで日本平から東照宮に向かう予定を変更して、静岡市の中心部にある駿府公園に向かうことになり、一同が着いた先は東御門橋。駿府城は天下の將軍様徳川家康の居城だけ

に鍍形になった御門は堅固な守りで、白い漆喰で塗り固められた外壁のそこかしこには弓狭間や鉄砲狭間があり、城攻めは容易でなさそう。東御門と巽櫓の内部は資料館で、完成二十余年後に焼け落ちた五層七階建ての天守閣の模型などがありました。その天守閣は細部まで丁寧に作られて、屋根も銅瓦葺だった上層は緑青色に、白蟻瓦葺だった下層は銀鼠色に塗り分けられ、往時を彷彿させる力作でした。

バスで次に訪れた先は登呂遺跡で、竪穴式住居や高床の倉などが復元されています。ここは弥生時代の集落跡で、木の鋤や

鉢、田下駄などの農耕具、食器やひしゃく、かごなどの生活道具、米やくるみなど炭化した種子といった出土品が展示されており、弥生人の暮らしが偲ばれるものでした。

藤枝市で社会保険労務士を営んでいる北村君と焼津駅で落ち合つて大崩海岸にあるまぐろ料理の宿石上に着きました。北村君とは、卒業以来四十八年ぶりの再会です。まぐろの刺身にかまの焼き物といったまぐろ料理の夕食のあと部屋に戻り、北村君を囲んで同期生の消息や、お互いの仕事のこと、それに北村君が中小企業の内部の事情に詳しいことから、バブル後のこの地方の経済情勢や労務事情な

ど、興味深い話が夜遅くまで続きました。三日目。朝日が太平洋から昇つて久しぶりの青空。まぐろのたたきの朝食後、この旅のハイライト大井川上流にある寸又峡目指して出発。金谷で東海道線から大井川鉄道に乗り換えて十分ほど走つたところでバスに乗ることに。昨年八月、土砂崩れで線路が分断され、不通区間がバスの代行輸送になっているもので寸又峡温泉に着いたのはお昼近くでした。

この温泉は金嬉老の狹銃立て籠り事件でも知られています。ここは吊り橋がお目当てで、寸又峡プロムナードを歩くこと三十分近く、天子トンネルを抜けると橋へ下る急な下り坂でした。夢の吊橋は、大間ダムの湖面にかけられた九十mの橋で、一度に渡れるのは十人まで。十分注意して歩いても橋が上下左右に揺れ出し、下を見ると幅五十cmほどの渡り板以外は素通しで八m下の湖面が丸見え。高所恐怖症や気の小さな人は思わず立ちすくんでしましそうです。でも全員が何とか渡り終えました。

渡り終えてホッと一息ついたところで、気がつくとも今度は急な階段がはるか上の道路まで続



四六回同期会報告

幹事 鍵富 春雄 (46回)

いている、という次第で、見ただけでモウ疲レタ！と悲鳴をあげそう。数えながら上ったところ三百五段ありました。帰り道の途中にある飛竜橋は、これまた溪流から七十mもの高さで、欄干越に見下ろすと目が眩みそう。ようやく又峡温泉まで帰り着いたところで、このコースの所要時間は一時間半、歩数七千歩、と案内パンフレットに記されていました。

帰りは来たコースを逆にたどり、金谷から東海道線の上り電車に乗車。北村君とは藤枝でお別れしました。さらに静岡から新幹線の上りこだまに乗り、途中各自が最寄り駅で下車して流れ解散となり、三日間にわたった電車の旅が終わりました。

同窓の本

68回生冬木洋子(旧姓伊藤)さんの編集で、著者梶浦 真さんの学力低下より怖い「学欲低下」教育報道出版社が発行されました。定価九百八十円
今、教育の場で、何が問題なのかを提起。保護者と教師が楽しく読める話題の書。

最後の

新中四十八同期会開催

代表幹事 五十嵐 皓太 (48回)

恒例の四六回同期会を十月十七日晝、白山会館に開催。昨年まで二十五名以上の出席を続けて来たが、さすがに八十二才を越えるとガクンと落ち、十七名にと、まり一抹の淋しさをおぼえた。

まづ発起人であり幹事長の横山隆二君が風邪で欠席、一年間に四名の方が他界。しかし東京から元氣な富所強哉、下勇両君がかけつけた我々同期唯一一人現役で活躍中の安田町本田富雄町長より景気をつけて頂き、現在十期目を向かえ多選、年令等を約した。

昭和十六年卒業のわが四十八同期会は、毎年秋に開催してきたが、年々亡くなられた人や、病気で療養中の人が増加して出席者が減り淋しくなってきた。そこで幹事相寄り今後の開催について協議した結果、「丁度今

年我々は満八十才の高齢者になった節目の年だから、本年度で四十八同期会は最後にしよう。」ということに決定した。そして最後の同期会は、思い出に残る少し豪華な場所で行うことにして、新潟市の超一流料亭「行形

恒例の四六回同期会を十月十七日晝、白山会館に開催。昨年まで二十五名以上の出席を続けて来たが、さすがに八十二才を越えるとガクンと落ち、十七名にと、まり一抹の淋しさをおぼえた。又県内道路行政の第一人者であり市長としての手腕が期待される。

宴たけなわになるとやはり多感であった中学時代の思い出にメは富所君の「つわもの」の応援歌で一同氣勢をあげ、再び

亭「いきなりや」で開催することに決め、早々と案内状を出した。開催日は平成十五年十月十九日(日)正午開会、午後二時閉会とし、会費は会の剰余金から一部補助して九〇〇〇円とした。やがて出欠の返信葉書がどんどん来て、何と三十一名の予想以上に多い出席者に驚いた。札幌市から一人、明石市から一人、横浜市から二人など遠路から。又この会に今回初めて出た人が二人など。やはりこれが最後の同期会だから、又場所が行形亭だから、そして会費が割安だからなどが大勢集まった理由ではないかと感じた。当日の行形亭の会場は庭を通過して一番奥の高台にある広間で、膝の悪い人が増えたので、当方が希望した椅子テーブルがセットされていた。広い美しい庭園が一望できる静かな落ち着いた会場であった。定刻正午に開会、司会進行は幹事の土田節也君で開会の挨拶。続いて私(五十嵐)から経過報告。その中にこれを最後の同期会にした経緯を説明し、このように大勢の出席者が集まってくれたことに感謝の意を表した。次に大谷一男会計幹事から会計報告がなされ、その後全員で最後の記念写真を撮って、

待望の懇親会に入った。先ず札幌から来てくれた東城次郎君の乾杯の音頭で一同元氣に乾杯。行形亭の見事な料理がテーブルに並ぶ。器も立派だ。流石だ。行形亭の女将(あねさま)がお酌して廻って下さった。会場はすっかり寛ぎいい雰囲気。久し振りの顔合わせで話は弾む。そして恒例の近況報告(一人二分以内)が始まる。相変わらず元氣で大きな声、小さな弱々しい声、新中時代と同じ感じの人、感じの全く変わった人、様々だ。全員のスピーチが終わり自由懇談となったが、次第に酔いも廻り、美味しいご馳走を頂いて笑い声があちこちに広がる。いつの間にか時間も進み、頃合いを見て諏訪宏君や斎藤力君が音頭をとって、新中校歌「玲瓏の天」の合唱、「くれないの旗行くところ」などの応援歌が会場に広がる。

その後遠い明石市から来てくれた吉川三吉君の音頭で万才三唱。最後に新たに幹事を引き受けてくれた小川清常君の閉会の挨拶で、最後の四十八同期会は盛會裡に終了。全員名残りを惜しんで解散した。今後は毎年開催される青山同窓会に大勢参加すれば、又皆に会えるから是非出席するよう要請した。終りに四十八同期生各位のご多幸を祈って、小生代表幹事を辞任させて貰った。(平成十五、十二、一〇)



七十期同期会

山本 憲久 (70回)

昭和三十七年卒業の私たち七
十期は、一九四三年度生れ。つ
まり、六〇回目の誕生日をいま
迎えつつある「還暦世代」なの
です。というわけで、万感の想
いを込めた還暦記念同期会を九
月二十七日(土)夜、万代橋に
できた朱鷺メッセ内のホテル日
航新潟で開催しました。新潟組
に加え、全国から多くの旧
友たちが駆けつけ、合計出
席者は百十六名??。

卒業から四十一年が経過
し、さすがに頭髮や胴回りが
不自由(普通の日本語を
使えばハ…とデ…です)な
旧友が多くなりましたが、
この日だけは全員が十八歳
の昔に返り、青陵祭や校区
一周駅伝など、若い血をた
ぎらせた思い出話を花を咲
かせました。

もちろん一次会で終わる
はずもなく、二次会、三次
会と深更まで盛り上がり、
みんな古町の夜を満喫して
いました。いくつかに分か
れた三次会で、一番遅くま



で飲んでいた組が店を出たのが
午前二時だったとか…。
翌日は、月岡フォレストゴル
フクラブで有志によるトーナメ
ント??。回数の多さでは同期会
をはるかに上回るこのコンペで、
今年はずばらしい結果が生ま
れました。半谷万里(旧姓片
山・直江津高校教諭)さんが、

女性では初の優勝者となったの
です。
キャリアはまた短いのですが、
本格的なレッスンを受けたそう
で、正確なショットを連発。レ
ッスを軽蔑し「信念ある我流
は全てに優る」と信じてやまな
いオヤジゴルファーたちを口惜
しがらせていました。そして彼
らのクヤシナミダのうちに、七
十期還暦記念同期会の行事はず
べて終了したのです。

五十九期 ゴルフ会

佐藤 吉雄 (59回)

去る十月七日、青山59期ゴル
フ会恒例のゴルフコンペを開催
した。会場は紫雲ゴルフ倶楽部
加治コースである。今回は重野
行甫君に手配していただいた。
当日、同君が所要で参加できな
くなったので、この紙
上を借りて一同を代表
して謝意を表する次第
である。古希の年、春
夏に続く二〇〇三年度
最後のコンペである。
参加者は、飯塚実、飯
村康一、権谷治一郎、
品田茂博、鈴木誠一、
長島一郎、吉川篤の諸
君と小生、合計八名で
ある。快晴にめぐまれ
また、幹事(飯塚、飯
村両君)の心遣いのお
蔭で楽しいプレーの一
日であった。

参加者のプレー振りは、グッ
ドショットもあるが、やはり、
年令を感じざるを得ない。「昔
は届いたんだがなあ」と、思わ
ず愚痴つたりも、あるが、とに
かく、全員楽しくプレーを終え



ることができた。
心地よい汗をかき、一風呂浴
びてから、先ずは成績発表であ
る。ペリア方式の意外性が面白
い。今回は久しぶりに参加し、
グロス109のJ君が準優勝となっ
て祝福の喝采を浴びた。グロス
100、101、105の諸君を、ごほう抜
きである。痛風に苦しみ、七月
の同窓会では、だぶだぶの靴を
履いて足を引きずり、アルコー
ルも飲まず、料理にもほとんど
箸をつかなかつたY君は、その
席上、同期の倉品県医師会会長
や同じく同期で痛風を経験した
友人からの適切なアドバイスが
効を奏し、今回は晴れて参加が
できた。何度会っても、特にゴ
ルフで楽しい一日を共有した後
は、何時の間にか気持が青春時
代に立ち返って、明日への新し
い活力を感じることができる。

我々の年代では、歩くことが健
康保持のため必要不可欠である。
誰でも気軽に参加ができて、ス
コアに囚われず、何時までも
楽しいゴルフ会を続けよう。そ
してこの輪をもっと広げていこ
うと参加者全員で確認しあった。
このゴルフ会は幹事諸兄の計
らいで、準メンバー並み料金で
プレーすることができ、参加費
は全額懇親会費と賞品代に充
当し、あまねく賞品が行き渡るよ
うにして懇親会を盛り上げてい
る。コースまでの交通について
も、参加者運転の車に便乗の余
裕が十分あるので、乗り合いが
可能である。会員に登録してい
る人はもちろんのこと、上手・
下手は関係なく、同期生、誰で
も遠慮なく幹事まで参加の旨、
申し込んでください。楽しくプ
レーしましょう。

90回同期会

―四十歳を迎えて!―

木村 和人 (90回)

八月十六日(土)新潟ワシ
ンホテルにて約百七十名の同
期生と十一名の先生方の参加に
より第90同期会が行われまし
た。お盆休み中ということもあ
り私たち東京組も帰省をこの日

に合せて多数集まることができ
ました。一学年だけで百八十名
も集まったというのは驚異的な
参加率ではないでしょうか。
体重が増えた人も髪が薄くな
った人も化粧で変身した美女軍

団も二十二年前の面影を少しは残していたことにお互い安心しながらあつという間の二時間でしたあまりにも盛大なため全部の仲間と顔を合わすことができなかつたことが少々残念でした、みな話に夢中でせつかくの食事

第90期



幹事・元三組 木村和人
kmyk.kimura@tbg-com.ne.jp

から定期的に会えることを期待しております。

青山同窓会総会には新潟でも東京でもあまり参加することもなく、同期会も一度もやったことのない私たちが第九十期生ですが、今回このように盛大な同期会が開催できたのは二三年前からあちこちで出始めた案を盛り上げ、クラス幹事を決め、名簿を作り、上杉先生のアドバ



ハイティーン水泳 新中・新高 38

66 古橋広之進

古橋広之進が長岡の悠久山プールへコーチのこられたのは一九五一年六月十七日だった。米国のスミスが四八年ロンドン五輪で四〇〇、四分四一秒〇で優勝した同じ時、日本大学の学生だった古橋広之進さんは日本選手権で四分三秒四を記録した。四九年マッカーサーに入国許可され、全米選手権で四分三秒三、千五百では一八分一九秒〇の世界新で泳ぎ、フジヤマのトビウオのニックネームをつけられた。

長岡の水泳協会の招待だった。

あんなに超満員になった悠久山プールのスタンドを、私はそれまで見たことがない。その日は、県内の長距離選手十数人がプールサイドに選出され、一人づつプールに入って指導を受けることになった。新潟高校からは私と江口良助(61回)だった。

私が二〇mほど泳いでから底に立つと、Wのスイーツを着た卒

平田 大六(60回)

業したばかりの古橋広之進は、腕で水をかく動作をしながら私に語りかけた。君の泳ぎは足の打ち方が僕と同じに変則的だから微妙なバランスでスピードを維持している。だから普通の選手の数倍の練習量が必要だよ。どうする？なおす？

私は首をふった。

「僕と同じ」でよいのだ！

みんな終わってから、古橋広之進の四百のデモンストレーションがあつた。両脇のコースをいっしょに泳いでください、第三のコース新潟高校の平田大六、第七のコースは明訓高校の菅野泰。

かなうものではなかったが私は満足だった。

フォームをなおすか？一ヶ月かかるが。

あとで、大黒善弥(50回)監督も私に問うた。いまのままでもいいです。「一ヶ月」ということもあつたし、倍の練習量の覚悟もできていた。なによりも古橋広之進と私が同じ泳ぎ方であることに私は感激していた。

67 大先輩たちの熱血

六月二十三日下越地区大会、七月一日県新人戦、七月十五日全日本予選。いずれも四百から千五百までのすべてのタイトルを守る事ができた。七月一日高田高プールでの高校新人選の、四百、五分五秒六、八百、十分三七秒五は、前年の全国高校ラッキング五位前後と評価された。しかし、水泳は陸上と違って「発展途上」だからこの記録で喜べない。

五月の末頃から、日本石油の坂井泰一(42回)先輩が同じ職場の山口進之助という人をプールに連れてこられていた。日本大学水泳部OBで水球の選手だった。その人が、ある日、後輩の水泳部の学生を指導に新潟へ数日間、来させることができた、とポツリと言われた。

それにとびついた江口文助(21回)立川正博(37回)先輩たちの努力で、実現したのは夏休み早々の七月二十日からだった。

青山体友会の集い

中川 弘(58回)

体操を愛し体操が好きで、鉄棒平行棒吊環鞍馬徒手跳馬で体をきたえ自分の体を思う様に扱うスポーツの基礎は体操にある。今年もなつかしい同好の先輩後輩が、十月二十五日(土)に錦城閣に集った。年はとつても昔とつた杵、体のあちこちにその片鱗がみられる。体操は日本人の体格に、適したスポーツであるといわれる。一番先輩の金井氏が、昔の体操の写真を持って

きて、「へー」「ホー」となつかしいの声。今もある新潟大病院の坂の上の手すりの倒立、万代橋の手すりの倒立、よくも自然倒立でやるわけだが、やつたものだ。昭和の始めに東京にもう試合にいったとか、いろいろの話に華がさく。今から考えると幼稚で単純であつたかも知れないが、そこから今日の隆盛がきづかれる。先輩は後輩を見、後輩は先輩の真似をし、縦社会

のつながりは、すばらしいものがあつたのである。水野先輩がやった鉄棒のカットも先輩をわざわざ呼びに行つて日暮れ時に見てもらつて。引くの反対の押すのコツを憶えた等の話をきかされ、一同「ホー」と聞きほれる。軍隊に入つても、社会に出ても、体操をやつたおかげで、得をし、特別に扱われ、体操を通しての考え方が、いかに役にたつた事か。各人の話の中に感じられる。一年に一回の会合ではあるが、わが新潟中学・新潟高校の体操部に因縁があつて所属したというつながりになつかしい郷愁を感じ、親と子と孫の三代の年の集まりは、めつたにあるものではない。いつまでもいつまでも続けようと誓い合ひ



来年をきし散会した。
当日の出席者（敬称略）金井弥寿郎（45回）水野信二郎（48回）望月彰（48回）土田卯八郎（51回）斎藤兌（52回）洪木登（55回）青山昭郎（55回）中川弘（58回）磯部博（73回）

フェンシング部OB会の報告

遠藤 総一（87回）

一月四日（土）古町越路会館において、フェンシング部OB会懇親会を行い、お忙しい中、青山同窓会幹事早福卓様、歴代顧問の瀧澤強一先生、赤井田秀光先生、OB三十二名にご出席を頂きました。今年は正月に開催したこともあり、日頃お会い

ングの思い出や最新のルールの話などに花が咲きました。また、全国選抜大会、インターハイ等、昨年の現役の活動や、平成二十一年度新潟国体に向けての選手強化の取り組み等が報告され、より一層現役の生徒への支援が依頼されました。今後とも開催時期を工夫し、歴代顧問の先生、三百余名のOBの交流を目的に、また現役への支援も含めて、年一回はOB懇親会を開催する予定であります。



青山剣友会（剣道部OB会）

町田 一越（95回）

役員

- ・会長 関崎睦夫（45回）
- ・副会長 村島 滋（52回）
- ・総会（八月）
- ・新年会（二月）
- ・OB・現役合同稽古（月一回）

総会・新年会の案内、会の活動報告、母校剣道部の近況を四百名の会員にお知らせしています。

- ・電子メール通信（月一回）
- ・合同稽古の案内、大会速報等リアルタイム情報を発信。
- ・大会参加
- ・建国記念県剣道大会（二月）
- ・や市民体育祭剣道大会（十月）

・年二回（七月・十二月）



月）等の大会にOBチームとして参加しております。母校支援
・合同稽古への参加や、活動費援助を行つていきます。
・「平石杯」剣道試合後援
青山剣友会初代会長・故平石恒夫氏（33回）ご遺族からの寄付を基に優勝カップを作成し、近隣高校との女子親善試合を後援しています。平成十五年八月十一日に開催三回目を数えました。

百年の夢 青山野球倶楽部

田村 誠一（62回）

明治三十一年の「遊方会雑誌」に次の記事がある。

「四月九日我校第五回卒業証書授与式挙げらる。式終り卒業生と分かるるに臨んで、相共に熱球を携へてグラウンドに戦ふこと数回、日既に西山に没せんとす。袂を分かつたんとするの時、卒業生諸氏立つて曰く、『野球の技あにそれ軽々視すべけんや、共同一致の誠心を養ひ、卑怯の行を去らしむ、実にこれ男子の技なり。一致の誠心はそれ国家の隆衰に及ぶやまた論を俟たざるなり。北米の独立・ローマの滅亡皆誠心保養の如何にありしなり。諸氏願わくはこの技の進歩を計り、延ては新潟中学の団結を計らねばならぬ』（「青山100年史」）野球部創部はこの四年前である。

「一致の誠心」とはチームワークのことだろう。それが「国家」にまで及び、また道徳的である点、明治の若人の面目躍如たるところがあって面白い。

「技」はチームワークの基盤となる個人技のことだ。この二つを併せて「野球の技」としたのは流石大先輩、新しい国体競技としての野球ゲームの本質を道破しておられる。

爾来、大先輩の言を後輩たちは拳拳服膺して、工夫、努力を重ね「技の進歩」を計って百余年を閲した。しかるに全国大会が始まって八十五年、未だにその出場の機会を得ていない。泉下の諸先輩はいかがお思いか。幾度か惜しいチャンスを選したとは聞いているが、忸怩たるものがある。

我々青山野球倶楽部は悲願達成にむけ後輩諸君の一層の奮起を期待して後援をしている。本年のチームはここ数年のうちでは力があるという。楽しみである。

さて、野球少年の夢を持ち続け、次世代の「技の進歩」に打ち込んでいる好漢が多数いる。母校同様彼らの活躍にも関心を寄せて頂けたら幸甚である。細山 修 81回東京久留米高部長

石本真琴 83回新潟第一高	監督	品田雅史 101回小千谷西高	顧問
竹内公英 83回新潟南高	部長	本間 遊 101回柏崎常盤高	部長
長田 裕 88回新潟江南高	監督	新通 晋 92回豊栄光西中	監督
石津博信 95回長岡向陵高	監督	石橋英男 93回豊栄葛塚中	監督
向井 章 96回村松高	顧問	長谷川裕高	
小林直人 99回佐久長聖高	部長	93回中条乙中	監督
中野 修 101回海洋高	監督	倉沢秀典 99回新大付属中	顧問
柳沢敏雄 101回糸魚川高	監督	川本慎一 102回加茂若宮中	監督

現役・OB合同練習会開催

高橋 裕之 (84回)

当クラブはOB総数二四〇名を超えるようになりました。その中で、春の総会で現役との交流をもっと増やせるような事業はないかということ、本年度は七月二十二、二十六日と十一月二十三、二十六日の二回、合同練習会を開催いたしました。

学校側のご好意で、第二体育館(アリーナ)の全面を使用させていただき、現役とOBの総勢三十名が思う存分白いシャツルを追っかけ素晴らしい汗をか

ことができました。日頃から、現役生のレベルアップが気になっていましたが、忙しさにかまけて、なかなか指導に來れないジレンマがあったので、大変良い機会となりました。

OBは二年ぶりにラケットを握った人、体は動けないが口で指導する人、思いのほか息遣いがあらい人・・・さまざままで、けがでもしなければただ祈る思いでした。会長からも、「会社の仕事でうまくいくのもいかないのも【ちよつとした事】の差で決まります。部活をやるからには強くなるよう努力をしなければいけません、強くなるにはその【ちよつとした事】を見つけ、実践することが大事です」と激励を飛ばされました。

参加したOBも、口々に、久しぶりで体はきついけど楽しかったとか、普段一人では学校に來にくいのでこういう企画があ

るとよいねとか、またやろう！とか前向きな意見が多く出ました。残念なのは、二十代、三十代のメンバーの参加が少なかつたことです。

最近では、中学校での経験者の入部が少ないようです。初心者が入部してきたら、まず基本ストロークを打てるよう練習することが何より大切です。今後現役生との交流とレベルアップを目指し練習会を計画してい

平成十五年度

青山柔道部OB会

OB会長 結城 俊郎 (62回)

十一月八日 六時より東掘通り六番町、錦城閣において、青山柔道部OB会総会を開催いたしました。

年間行事として計画・実行しておりますが当日は丁度衆議院議員選挙の前日ということもあって、参加者数が少なくなるのではないかと、危惧しておりました。

熱心にあつまっていたということ、ほんとうに感謝いたしました。と存じます。

定刻開始、会長挨拶、行事報告、行事計画の発表、会運営について確認し、学校側から加藤

きたいと思えます。今年度の予定は、「行形亭での年末の集い」と「新年会」です。最近行事に参加してくれるメンバーが固定化しているようです。皆さんが参加できる日程を考えますので、まだ参加したことのないメンバー諸君、夜に強い人は宴会に、それが無理な人は練習会に是非参加して下さい。待っています!!

この目的の中で、特に新人OB、若手OBが部活の現場で直接指導し、共に汗を流し合うことによって、熱気あふれる部活につなげたい、と願って来ました。

週五日制により、部活の実際時間の制約など困難もあると思っておりますが、積極的に参加しております。一層の参加を願ひいたします。

一方、青山柔道部OBの方々は、部活のみならず、日本の中でも一流の先輩ぞろいでもあります。この素晴らしい先輩の聲咳に接することは、大きな喜びであり、刺激であり、意義あるものでありますので、大先輩のご指導をお願いするものであります。

総会には同窓会から長谷川新会長がわざわざ御出席していただきました。

御挨拶、激励をいただきましたことを大変有難うございました。

- 一. 現役の強化、強い、好成績の残せる活動
- 二. 部員の強化、増強、柔道の

一緒に柔道部歌を唱っていただきました事、感動的でした。

総会後九六回卒渡辺先輩を中心として、それ以降のOBをさらに整備していこうというお話をいただきました。期待すると共に、力強く感じています。

42回卒森山先輩から書籍をいただきました。森山先輩の同期の方とのことです。

「国際親善にも寄与！
昔海軍今海上自衛隊の柔道部の活躍」

著者 眩友会会長 上村嵐
有難うございました。

平成15年度青山同窓会収支予算書(案)

(平成15年4月1日～至平成16年3月31日)

収入の部 (円)		
科目	本年度予算額	前年度予算額
総 結 金	2,109,000	2,617,000
入 学 金	86,000	860,000
会 費	5,300,000	5,300,000
雑 収 入	1,000	1,000
合 計	8,270,000	8,778,000

支出の部 (円)		
科目	本年度予算額	前年度予算額
人 件 費	1,140,000	1,250,000
通 信 費	2,000,000	2,000,000
印 刷 代	500,000	600,000
慶 弔 費	150,000	150,000
会 報 印 刷 代	1,000,000	1,000,000
会 議 費	1,500,000	1,600,000
卒業生記念品代	300,000	300,000
福 助 費	1,300,000	1,300,000
退 職 積 立 金	100,000	100,000
諸 費	260,000	260,000
予 備 費	20,000	218,000
合 計	8,270,000	8,778,000

平成14年度青山同窓会収支決算書

(自平成14年4月1日～至平成15年3月31日)

収入の部 (円)		
科目	予算額	収入額
総 結 金	2,617,000	2,617,350
入 学 金	860,000	858,000
会 費	5,300,000	6,397,000
雑 収 入	1,000	46
合 計	8,778,000	9,872,396

支出の部 (円)		
科目	予算額	支出額
人 件 費	1,250,000	1,366,220
通 信 費	2,000,000	1,666,290
印 刷 代	600,000	417,510
慶 弔 費	150,000	146,270
会 報 印 刷 代	1,000,000	850,500
会 議 費	1,600,000	1,308,407
卒業生記念品代	300,000	273,000
福 助 費	1,300,000	1,201,995
退 職 積 立 金	100,000	100,000
諸 費	260,000	343,217
予 備 費	218,000	89,250
合 計	8,778,000	7,762,659

収支差引残高 2,109,737円
次年度繰越金額 2,109,737円
平成15年5月2日
上記の通り相違ないことを確認いたします。
監事 早福 卓
監事 上杉 雅之



- | | | | | | | | |
|--|---|---|--|---|--|--|--|
| 稲井晶子
大風間佳子
唐澤朋子
日下部平喜
栗原美佐
幸村しほ
小林立彦
小針隆苗
小亦齊極
小坂上広介
佐々木明
澤田英裕
高橋吉朗
津野史明
戸崎秀史
野隆史
生川恵一
広村一聡
本谷誠敏
真宮野正
宮島茂樹
目黒義剛
八藤剛一
山渡健一
渡辺宣昭 | 伊藤秀功
植木光郎
牛藤田潔
遠藤則幸
岡田美都
荻庄則都
風間磨理
加藤藤稔
下田康久
窪木みや子
熊佐藤佛二
佐藤時夫
鈴木克人
高橋慶佳
高山山一郎
高玉木武
富山美子
Dougan知子
中村昌子
長澤恵依
仁多見俊
藤崎直美
古田祐靖
本間憲之
丸田拓章
水原章貴
宮野由貴
山口虎彦
山作房彦
山田進修
横山修篤 | 吉田敦治
吉水敦忍
若杉友昭
渡辺友昭
阿部時也
荒川朋明
五十嵐英一
石崎悦郎
今須賀郷子
小加野兼義
加藤雅一
黒原隆男
小林正史
小林明男
近藤秀二
郷扶藤忠
斎藤紀夫
鈴木建造
高橋裕之
田崎和郎
島野達行
丸山正誠
宮村上哲
森岡英俊
山口充子
行川敦子 | 桂治昭
田德忍
石田野哲
富野原和
美文基雄
子男茂雄
沼野哲原
大野原徹
沼村教志
富野孝平
石田さゆい
田佐拓哉
富野拓哉
石田洋子
高野裕一
竹内敦彦
筒井芳樹
灰野孝宏
長谷川亮子
早川啓太郎
星山松太郎
堀川正幸
宮村明卓
渡辺山卓 | 河合慎次
白倉俊正
鈴倉信一
瀬谷野一
高橋聡晃
高橋雅哲
高松照夫
田辺真直
玉外山佳代
中川重三
林宮崎芳明
吉渡彩子
荒川成一
五十嵐昌智
石川上博
今西保一
大久保克宏
奥村和子
小野和子
清水忠宏
白柏基純
Saltzgeber純
田中隆規
土屋真弘
林恭健介
藤本多剛 | 松本俊輔
宮田佳則
88回S55年
十嵐修一
池田全之
石原基規
大岸亮一郎
君伸裕毅
木村博見
草間竹栄
小井亮一
新井保晴
鈴木郁之
常木都之
坪南場充
長谷川健司
長谷川裕浩
藤本信明
吉田治夫
渡辺德昭 | BeckmannSatoko
山上浩志
渡邊吉彦
90回S57年
五百川浩淳
岩谷薫宏
内同政順
畔柳順一
齋藤俊弘
齋藤道明
齋藤恭広
青藤洋須
白井修利
隅木敏哉
高橋文亨
土徳富山
深川充恭
村上肇
村渡上栄
91回S58年
市川健子
梶谷正隆
92回S59年
小野あゆみ
河内康志
北尾彰朗
94回S61年
花村竜司
95回S62年 | 浅岡俊宏
96回S63年
鈴木周司
横田浩司
99回H3年
宇田達な
吉澤いと
100回H4年
加藤貴之美
森岡聡美
101回H5年
打越輝昌
小川史佳
小林和佳
鈴木由貴子
107回H11年
宮島望 |
|--|---|---|--|---|--|--|--|

二健博弘彦 祐男昭夫 一郎雄郎 雄美り 子弘太 雄弘 混孝子 一夫 敏二 敏基 且彬 靖男子 夫夫 教夫 清睦 規一 樹浩 男亨 子達 介子 勝敏 一三 之彦 讓子 明榮 男夫

70回S37年
浅川洋健 一也 里正 子二 允孝 昭迪 夫夫 邦良 枝

夫市男幸郎 透脩平 二司治明武 子樹男郎 子爾介 子幸厚 孝一 一子 正治 作之吉 昭郎 久和 信果 介薰 則惇 子德 也博 二男 雄郎 敏潔 源猛 肇一 男弥 夫正 大雄 子微 子衛 夫子 彦二 実生 敬孝 一男子 弘

68回S35年
赤塚五十五 賢晋 俊尚 正輝 昭太 光克 ミト 靖健 卜敦 晃嶺 建泰 義正 四和 公重 正賢 木廣 代喜 裕美 隆利 徹一 紀野 見沢 石康 宣光 憲正 輝代 田正 輝紀 代原 庄忠 良昌 伸田 信野 内建 藤澤 山

康信 稔功 郎門光 弘操 也夫 智堯 夫子 男男 穗真 一郎 作夫 夫通 昭治 功工 宏男 雄雄 一紀 子彦 治夫 夫彦 治一 子子 滿伍 節登 久一 三亨 一平 郎也 夫元 収史 子宏 雄仁 穗司 子郎 治肇 昌允 子楊 啓吾 助弥 男実

67回S34年
山口崎 瀬弘 工喜 正 也 俊 繁 也 夫 智 堯 夫 子 男 男 穗 真 一 郎 作 夫 夫 通 昭 治 功 工 宏 男 雄 雄 一 紀 子 彦 治 夫 夫 彦 治 一 子 子 滿 伍 節 登 久 一 三 亨 一 平 郎 也 夫 元 収 史 子 宏 雄 仁 穗 司 子 郎 治 肇 昌 允 子 楊 啓 吾 助 弥 男 実

早半 伏藤 堀本 本松 丸宮 村 鎗吉 渡 青 青 行 池 池 今 薄 内 榎 大 小 小 乙 加 加 加 加 金 金 神 菊 熊 小 小 小 小 合 佐 佐 里 塩 鈴 鈴 鈴 鈴 関 関 高 高 多 竹 田 田 坪 富 中 中 二 野 野 橋 橋 橋 橋 長 半 平 広 福 福 藤 古 星 堀 本 松 丸 宮 村 八 矢

66回S33年
川澤 勝川 芳忠 英智 一忠 和政 田 井田 並野 川 順一 正勝 孝靖 兼義 征治 國正 啓裕 春紀 正和 芳興 滋木 篤敏 敬文 浩健 澄元 清俊 英太 靖宏 雅本 廉精 榮弥 孝憲 利忠 津野 正清 岡一 健木 直

磨浩 康隆 弘久 司彦 也 作之 治郎 晃滿 章夫 郎 昭司 之輔 之 厚子 躬夫 榮史 彦郎 尚郎 郎 彦良 一夫 正夫 元夫 郎 利彌 次夫 夫道 剛一 雄茂 巨雄 弘夫 孝子 郎 夫雄 司昭 恒夫 郎 美一 德義 博平 央行 裕美 英夫

65回S32年
塚津 坪中 中西 庭畑 早廣 廣 藤 星 星 本 松 森 谷 山 山 吉 淺 安 阿 阿 荒 荒 池 池 石 泉 市 原 野 木 田 橋 堀 川 政 崎 沢 関 卷 間 合 路 林 林 村 孝 泰 林 林 良 勝 藤 藤 輝 奈 五 正 三 勝 達 木 木 貞 敏 中 建 武 三 良 勝 木 重 津 口 睦 野 庄 征

說男 治洋 雄子 二二 一子 一俊 次樹 子正義 一豐 子司平 昭介 夫郎 男道 司利 音子 弥晃 治三 吉一 廣郎 子茂 夫微 明子 郎坦 勝雄 文裕 二雄 彦一 敬士 章治 司一 朗洵 子男 生喬 弘助 洋彦 朗實 郎夫 久樹 亮人

64回S31年
馬平 藤藤 藤保 本牧 松松 松真 三三 水南 村村 山山 山山 山山 湯橫 吉渡 渡和 木部 藤村 海口 石田 槻熊 嶋島 鳥島 影沢 井口 崎地 村谷 野山 光裕 林信 幸俊 川清 藤幸 藤茂 唯陽 史岡 裕良 厚木 睦之 橋橋 邦治 代社 川堅 一恒 中 恒 伏 卷 原 久

63回S30年
間赤 羽野 良康 一達 正郎 子行 男吾 昭二 治郎 夫介 雄雄 聡夫 子敏 滋雄 二夫 之平 郎郎 雄雄 資夫 一三 三正 二衛 雄一 子泰 一權 男鏡 明夫 道夫 彦彦 潔三 介義 榮行 元彦 三夫 衛生 平之 範美 瑛一 衛子 輔允 孝明 彰治 正郎 勉

男紀 明之一 望亮 治開 也弘 子也 朗博 成健 郎男 彦郎 恰也 司也 仁彦 博愛 勉義 健一 子元 臣夫 郎子 一夫 啓吉 寬一 郎一 彦敷 治郎 雄夫 男一 一介 三子 典夫 一五 純仁 吉彦 夫重 和夫 修隆 朗夫 之郎 雄弘 司真

貝津 德由 男紀 明之一 望亮 治開 也弘 子也 朗博 成健 郎男 彦郎 恰也 司也 仁彦 博愛 勉義 健一 子元 臣夫 郎子 一夫 啓吉 寬一 郎一 彦敷 治郎 雄夫 男一 一介 三子 典夫 一五 純仁 吉彦 夫重 和夫 修隆 朗夫 之郎 雄弘 司真

平成15年度青山同窓会会費納入者名簿

(5月末より12月2日まで納入のもの)
未納の方は3月までに納入下さるようお願いいたします。
"1口1,000円。なるべく2口以上でお願いいたします。"
郵便振替口座 00650-7-4455 青山同窓会

Table with multiple columns listing members and their payment status, organized by year from 27回T9年 to 40回S8年.